

小さな拠点づくりと公共交通の取り組み



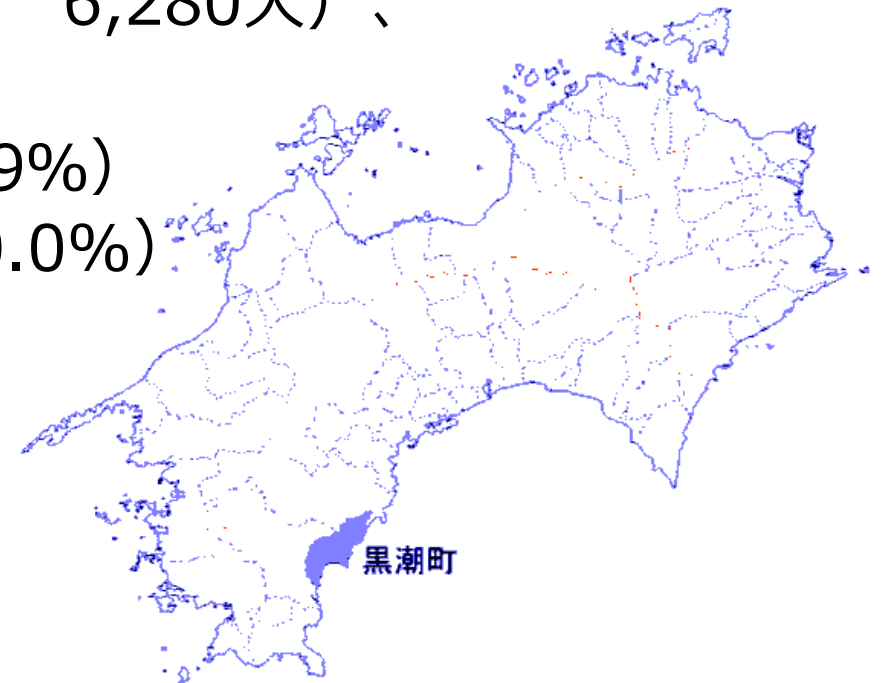
人が元気、自然が元気、地域が元気

黒潮町

黒潮町の概要

- ・ 黒潮町は、平成18年に高知県幡多郡「旧佐賀町」「旧大方町」の合併により誕生。
- ・ 四国／高知県の中でも西南に位置。
- ・ 面積188平方キロメートル。
- ・ 人口 11,963人（男 5,683人、女 6,280人）、世帯数 5,634世帯
- ・ 15歳未満の年少人口 1,063人（8.9%）
- ・ 65歳以上の高齢人口 4,788人（40.0%）

※平成27年9月末日 住民基本台帳より



■ 集落活動センター

中山間地域では、高齢化の進行や人口の減少に伴う地域活動の担い手不足、買い物や移動手段といった生活面での不安、農林水産業を担う人材の不足など、さまざまな課題に直面しています。

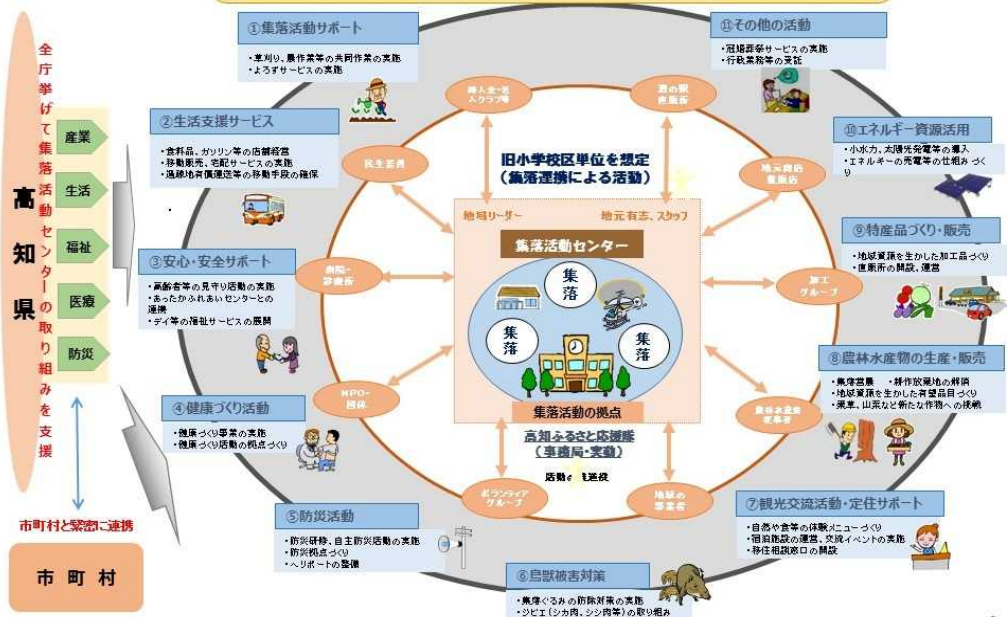
その一方で、地域住民は、集落への「愛着」や「誇り」を感じながら「今後もここに住み続けたい」という思いを持っています。

「集落活動センターセンター」とは

住民の思いを大切にしながら、地域が抱える課題を解決する手段とした事業で、「集落維持の仕組みづくり」の核として、高知県が推進する事業です。

「集落活動センター」を中心に、地域住民が主役となって、地域が抱える課題を解決したり、住民の思いややりたいことを実現するために「地域で支え合い」「助け合う仕組み」づくりや、地域でお金が回る仕組みづくりを目指し、次世代に繋いでいくため、積極的に取り組んでいます。

集落活動センターを核とした集落維持・再生の仕組みづくり



■ あったかふれあいセンター

地域の見守り・支え合いの地域づくりのため、子どもから高齢者まで誰もが気軽に集い、生活支援サービスなどを受けることができる拠点として、高知県が整備を推進している事業です。

「あったかふれあいセンター」の機能 (提供する生活支援サービス)

- 集う** 基本機能(サロン、デイサービス、放課後の子どもの居場所等、誰もが自由に日中過ごすことができる機能)
- 付加機能** ①預かる ②働く ③送る ④交わる ⑤学ぶ
- 訪問** 独居高齢者や障がい者の見守りや相談活動等のための訪問機能
- 相談** 地域の要援護者やその家族、地域住民からの福祉サービスに関することや、日常生活での困りごとや気にかかることなどの相談に応じる機能
- つなぎ** 相談・訪問活動等によって発見されたニーズや課題を市町村や包括支援センター、専門機関につなぎ、連携して必要な支援に取り組む機能
- 生活支援** 地域の生活課題やニーズに応じた生活支援サービスの仕組みづくりやコーディネーター、サービスの提供、地域での支え合いの仕組みづくりなどの機能
- 機能拡充** A.泊り B.移動手段の確保 C.配食

※ 地域の実情に合った機能を選び、組み合わせる実施

「黒潮町地域福祉計画」で抽出された福祉に関する課題

住民アンケート、住民座談会、団体/事業所アンケート、中学2年生アンケート、ヒアリング調査などの結果、黒潮町では、福祉に関する次の13の課題が抽出された。

地域での見守り対策	支え合いの仕組みづくり	ボランティアの育成
交通手段の確保	買い物支援	相談体制
情報共有	防災対策	健康づくり
生きがいづくり	食生活改善	交流の拠点づくり
地域を元気に		

中山間地域の「小さな拠点づくり」

廃校を利用した地域の拠点

「あったかふれあいセンター」と「集落活動センター」の取り組み



集落活動センター北郷

開所日：平成25年4月20日

①3集落の交流を深める。②世代を超えてつながる。
③暮らしと文化を受け継ぐため、集落活動センターを立ち上げ、旧北小学校を活動拠点に交流事業や生きがいづくり、特産品開発をめざす。

また、あったかふれあいセンターと連携して「ぴんぴん作業所」を開設し、両センターの利用者を対象に野菜づくり等の軽作業を提供し、健康づくりや生きがい対策を行っている。

2F

あったかふれあいセンター北郷

開所日：平成25年6月1日

少子化や高齢化のため疲弊する中山間地域に「子どもから高齢者まで誰もが気軽に集い、生活支援サービスなどを受けることができる福祉の拠点」として設置。

福祉の向上を図るとともに「地域づくり」にも参画することを目標としている。

1F

北郷地区の状況

北郷（ほくごう）地区は、本谷（ほんたに）、大屋式（おおやしき）、大井川の3集落からなる地域

中心地域からの距離

・役場：5.11km

・医療機関：5.16km

・郵便局：4.79km

人口の状況(H27.9月末)

・人口：137人(11,963人)

・世帯数：67世帯(5,634世帯)

・高齢化率：50.4%(40.0%)

※カッコ内は黒潮町全体のデータ

あったかふれあいセンターのコンセプト

あったかふれあいセンター



あったかふれあい
センターの業務

地域づくり
地域活性化の業務

あったかふれあいセンターは「日常的に機能(サービス)を提供しながら、地域づくり(地域の活性化)に貢献する施設とする」ことを基本方針として位置付け

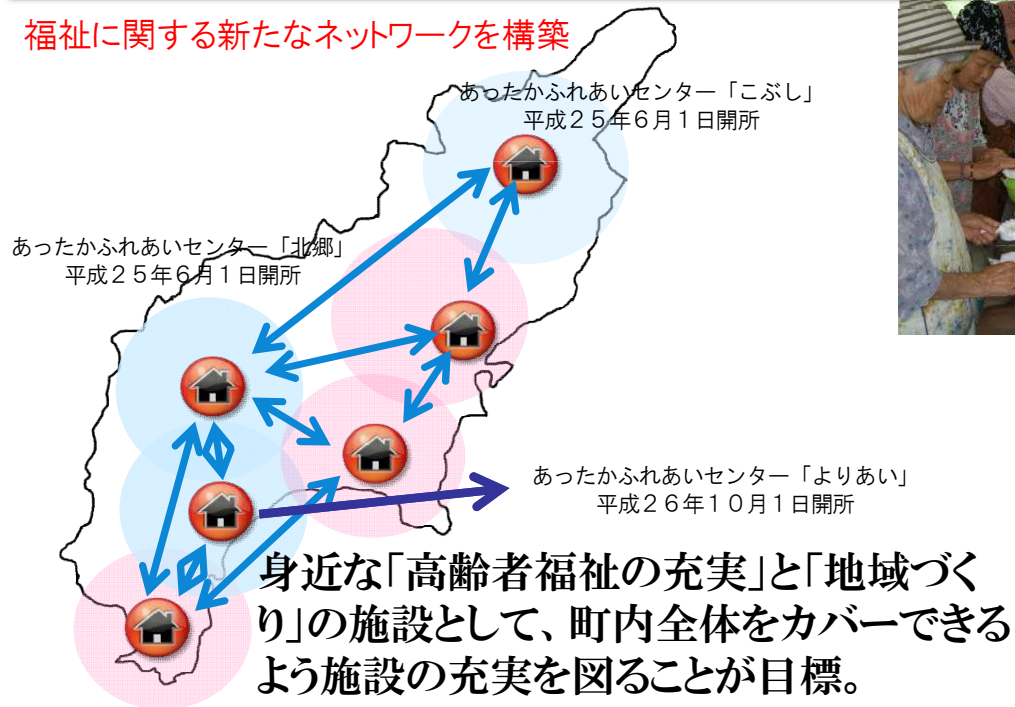


地域みんなが集まって記念撮影

認知症予防の様子

◆新たな福祉のネットワークの構築 (身近な施設として地域の「拠点」づくり)

福祉に関する新たなネットワークを構築



「お風呂の日」の風景



風鈴づくりの様子

花壇づくりの様子



あったかふれあいセンターは、住民の自発的で自主的な活動の拠点となる施設であり、住民活動への手助けをする場所です。あったかふれあいセンターの基本的なサービスの他に、住民の身近な施設として地域の活動にも積極的に協力し、地域づくりや地域の活性化を図ります。

集落活動センター北郷のイメージ図

- ①少子化と若年者の転出が増加し、それぞれの集落活動の維持が困難になっている。
- ②地域のインフラ整備が遅れ、災害時には集落が孤立する可能性が高い。
- ③地域に交流活動の拠点施設がないため、加工品づくりや地域のイベントの取り組みが遅れている

課題解決の手段

地域住民が主体となって、集落活動センター北郷を拠点に、地のもの活かした物づくりと人づくりを行い、あったかふれあいセンター北郷と連携して、人に優しい生きがいのある地域を目指す。

あったかふれあいセンターと連携

安全・安心サポート

- あったかふれあいセンター参加者の労働力を活用した「びんびん作業所」等、地域の集いの場づくり



生活支援サービス

- むらのコンビニ「天然素材スーパー北郷」を営業
- 入浴支援活動「ワンコイン銭湯」を実施

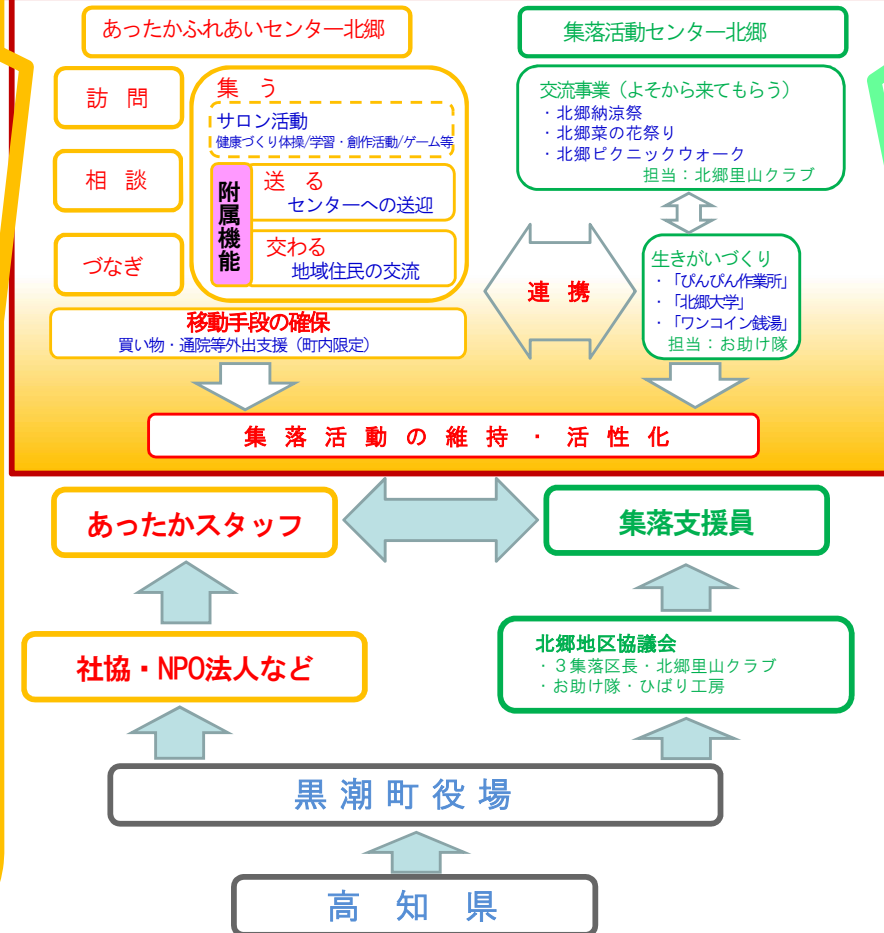


防災活動

- 避難所宿泊体験を実施、地域防災のシステム化
- 「アプローチライト北郷事業」等、防災設備の整備



北郷地区の幸せな暮らし方計画



天然素材スーパー北郷 サイト

人口交流・体験

- 「納涼祭」や「菜の花まつり」等、既存の交流イベントの強化
- 「北郷大学」「ピクニックウォーク」等、新たなイベント開発



納涼祭ポスター



菜の花祭りポスター



北郷大学のイメージ写真

特産品づくり・販売

- 「米飴」や「菜種油」等、既存の特産品製造販売の強化
- 地元素材を活かした新規特産品づくり



米飴



桧中の額縁プランター

黒潮町の公共交通

①鉄道

- ・土佐くろしお鉄道(中村・宿毛線)

②路線バス

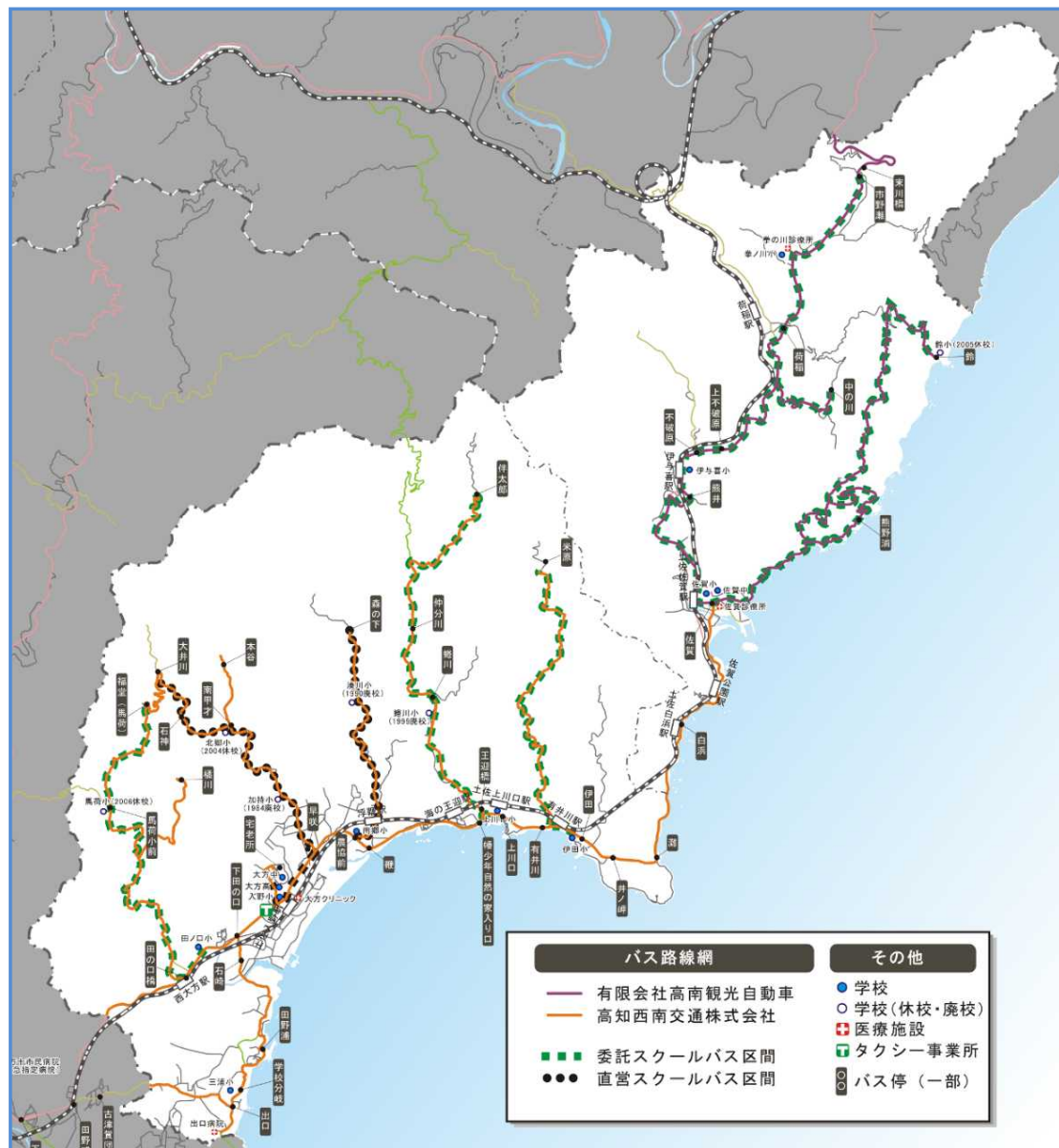
- ・高知西南交通株式会社(大方地域)
- ・株式会社四万十交通(佐賀地域)

③スクールバス

- ・委託スクールバス
高知西南交通(大方地域)
株式会社四万十交通(佐賀地域)
- ・直営スクールバス
黒潮町

④その他

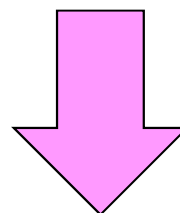
- ・タクシー(大方地域 1社 2台)



公共交通の課題

- ・公共交通利用者数の減少
- ・運行補助金の増加
- ・高齢化による交通弱者の増加

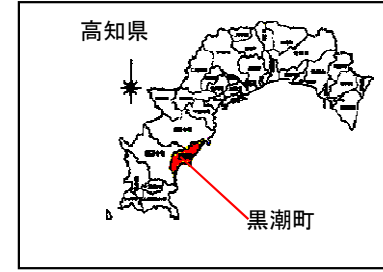
現状の分析、課題の整理が必要



黒潮町地域公共交通総合連携計画の策定
(地域公共交通活性化・再生総合事業を活用し、平成22年3月策定)

黒潮町地域公共交通総合連携計画

平成22年3月23日連携計画策定



基本理念

健全な町民生活を支え、地域の活性化に欠かせない社会基盤として、将来にわたり持続可能な公共交通の構築

計画目標(3つの柱)

◆町民の安心な生活を支える公共交通

【公共交通の空白地域の解消】

・公共交通の空白地域解消に向け、優先度の高い、市野々川地域及び川奥地域で実証運行を行うことで利用状況を把握するとともに適した運行方法を模索し公共交通空白地域の解消を図る。

◆効率的かつ柔軟で持続可能な公共交通

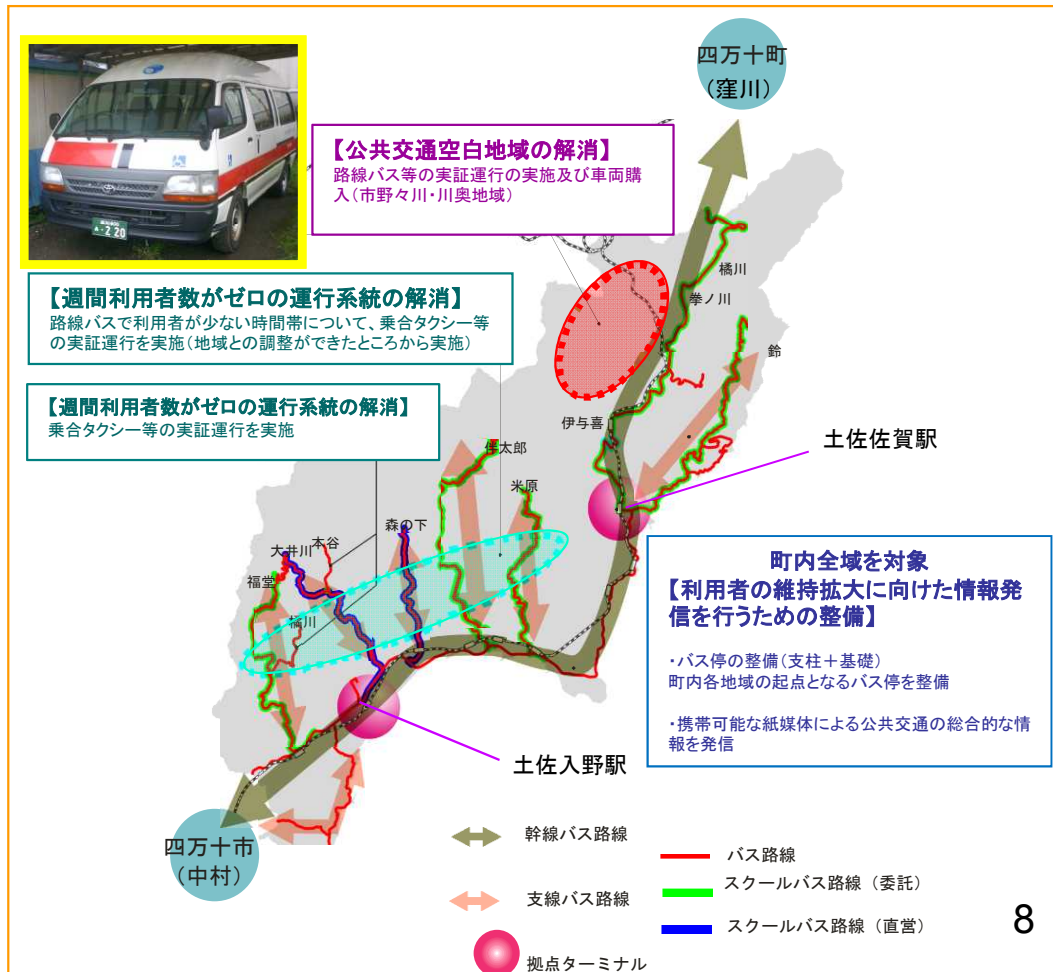
【週間利用者数がゼロの運行システムの解消】

・定期バス路線(利用者が少ない路線について)に代わる運行方法として、乗合タクシー等の実証運行を行い、将来的な導入を目指す。

◆町内外の活発な利用に支えられた公共交通

【利用者の維持拡大に向けた情報発信を行うための整備】

・バスの乗降場所が分かりにくい状況にあるため、地域で起点となるバス停(支柱+基礎)を整備することにより、バスを利用しやすい環境を整備するとともに、バス停に料金や時刻を掲載することで、情報発信を図る。
・携帯可能な紙媒体による公共交通の総合的な情報を発信することにより、地域住民への周知や利用促進につなげる。



効率的かつ柔軟で持続可能な公共交通

・週間利用者数がゼロの運行系統の解消

【ニーズ把握】

路線バスに代わる運行方法は何が良いのか？
バス利用者は普段どのような利用をしているのか？
路線バスを利用して、何が不便に感じるのか？



利用している人に直接聞いてみる！

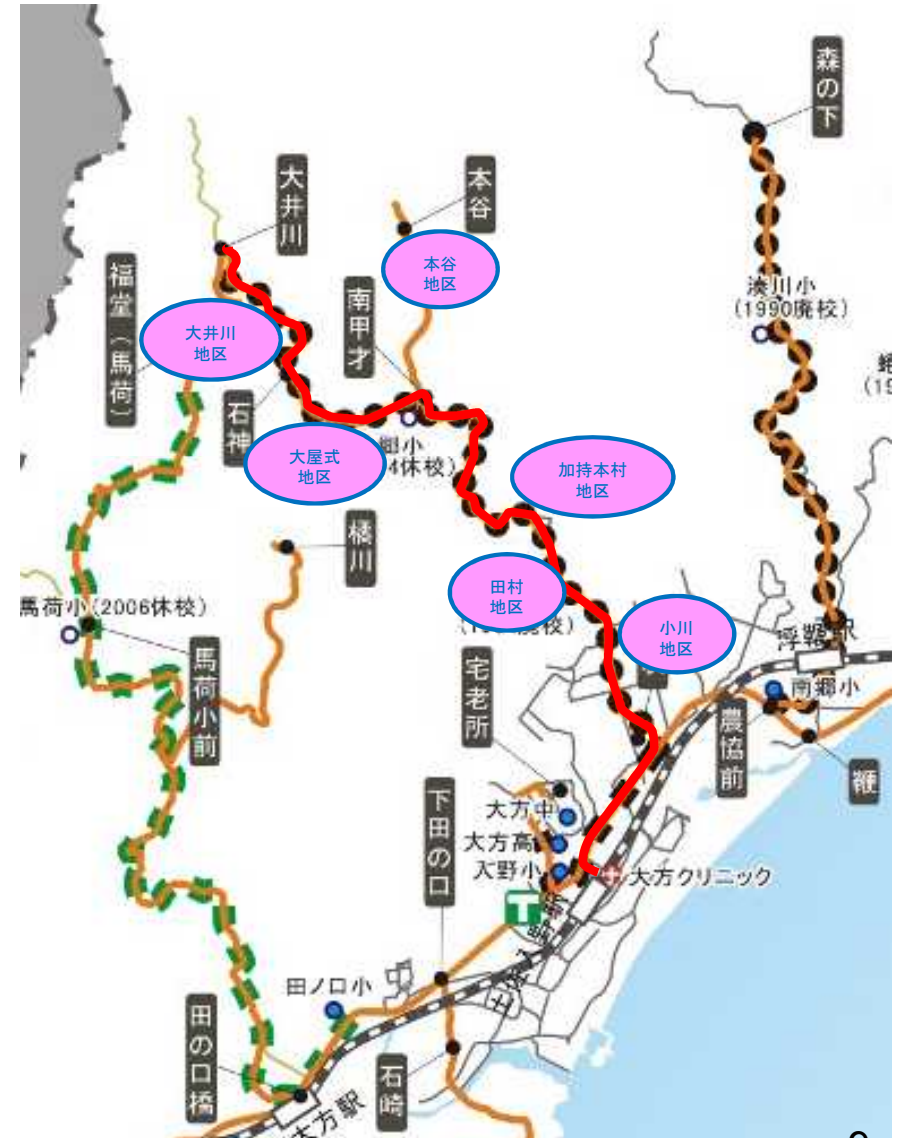
【対象路線】

利用状況の1番良くない路線を対象にして、路線バスに代わる運行方法のモデルケースを作成する。

- ・大井川～入野駅線
- 沿線地域6集落(大井川・大屋式・本谷・加持本村・田村・小川)
※路線バス(幹線)が利用できる集落は除く

【意見交換会の実施】

6集落区長に協力いただき、路線バスを利用している方やこれから利用をしそうな方との意見交換会の実施。



・意見交換会

6集落で実施(10名~20名参加)

■バスを使って外出する目的は何ですか？

⇒病院(町内のクリニック、四万十市の専門病院)、買い物(町内のスーパー、四万十市のスーパー)

■バスを使って外出する頻度はどのくらいですか？

⇒最大(週に3回)、最小(月に1回) 毎日には必要ないとの意見が大部分

■バスに乗っていて困ったことはないですか？

⇒スーパーまでの距離がなかなか大変。特に雨の日は困る。

■どんな移動手段になればいいですか？

⇒ハイヤー(タクシー)みたいになったら最高やけど料金が高い。

【施策の方向性】

運行日:週2~3日の隔日運行。

運行ダイヤ:四万十市の専門病院へ通院するため、幹線バスや鉄道との連携に特化する。

運行ルート:土佐入野駅だけではなく、スーパーや歯医者・美容室などで乗降できるルート設定にする。

使用車両:小型車両を使用し、自宅のなるべく近くで乗降ができるものにする。

【運行方法の提案】

理想の移動手段は安価なハイヤー(タクシー)であるが、財政面からも困難であり、なるべく近い形のを提案する。

小型車両を使用した定時型エリアデマンドバスの提案 ⇒ 再度、意見交換会の実施

・ 定時型エリアデマンドバスの実証運行

平成25年5月1日～平成26年3月31日（高知県地域の交通維持支援事業費補助金）

北郷加持エリアデマンドバス 平成25年5月1日運行開始



デマンドバス運行日
月・水・金曜日運行
(祝日、12月31日運休)
実証運行期間
(平成25年5月1日～平成26年3月31日)

デマンドバスをご利用いただくには、事前に予約が必要です。
予約受付センターに電話をして予約を行ってください。

予約受付センター(7:00～18:00受付)
電話番号 0880-34-1267

●行き(各エリア⇒入野駅周辺)

エリア発	入野駅着
①7:00	7:35
②9:00	9:35
③11:00	11:35
④14:00	14:35
⑤16:00	16:35

●帰り(入野駅周辺⇒各エリア)

入野駅発	エリア着
①8:00	8:35
②10:00	10:35
③13:10	13:45
④15:00	15:35
⑤17:00	17:35

北郷加持エリアご利用案内

出かけるとき:電話で予約すると自宅近くまでお迎えに行き、入野駅周辺までお送りします。
帰るとき:電話で予約すると入野駅周辺までお迎えに行き、自宅近くまでお送りします。

利用者登録 **利用者登録をお願いします!**

□原則として、事前に利用者登録が必要です。利用者は利用登録(登録料は無料)をお願いします。
□利用者登録用紙は黒潮町役場(総務課企画振興係)に備え付けています。また、電話による登録もできます。(予約受付センターTel.34-1267 黒潮町役場総務課Tel.43-2177)

事前予約 **利用の前には電話で予約が必要です!**

□朝の始発便は、利用希望日の前日正午まで、2便目以降は出発時間の2時間前までに予約受付センターへご連絡ください。
※予定変更(キャンセルなど)はすぐに連絡をお願いします。

予約受付センター(7:00～18:00受付)
電話番号 0880-34-1267

料金

□大人(中学生以上)・・・100円
※小人(小学生以下)及び障害者は半額
※1歳未満の乳児、未就学児童(保護者1人に付き1人)は無料

運行

□運行日
月・水・金(祝日、12月31日運休)
□予約受付時間
7:00～18:00(※祝日、12月31日は予約受付していません。)
□運行エリア
北郷加持エリア(大井川、大屋式、本谷、加持本村、田村、小川)～入野駅周辺

運行エリア



お問合せ先:黒潮町役場 総務課 企画振興係(Tel.43-2177)

・実証運行の結果

【利用者の意見】

- ・買い物に行くときに便利になった。雨天時や荷物が多いときは家の近くまできてくれるので助かる。
- ・四万十市への乗り継ぎも便利になった。バスを待つ時間が短くなった。
- ・料金も手軽で利用しやすい。
- ・用事が1箇所ときは便利だが複数の場合は大変である。
- ・11時くらいに帰る便があれば便利。
- ・電話予約は最初は緊張したが、1回すればすぐに慣れた。
- ・空のバスが走らなくなったのはとても良い。車の運転もしやすくなった。

【路線バスとの比較】

路線バス(平成24年度)

- ・運行日数: 月～土
- ・運行便数: 1日8便(4往復)
- ・利用者数: 739人
- ・運行費用: 4,234千円

デマンドバス(平成25年5月～平成26年3月)

- ・運行日数: 月・水・金
- ・運行便数: 1日10便(5往復)
- ・利用者数: 681人
- ・運行費用: 3,673千円

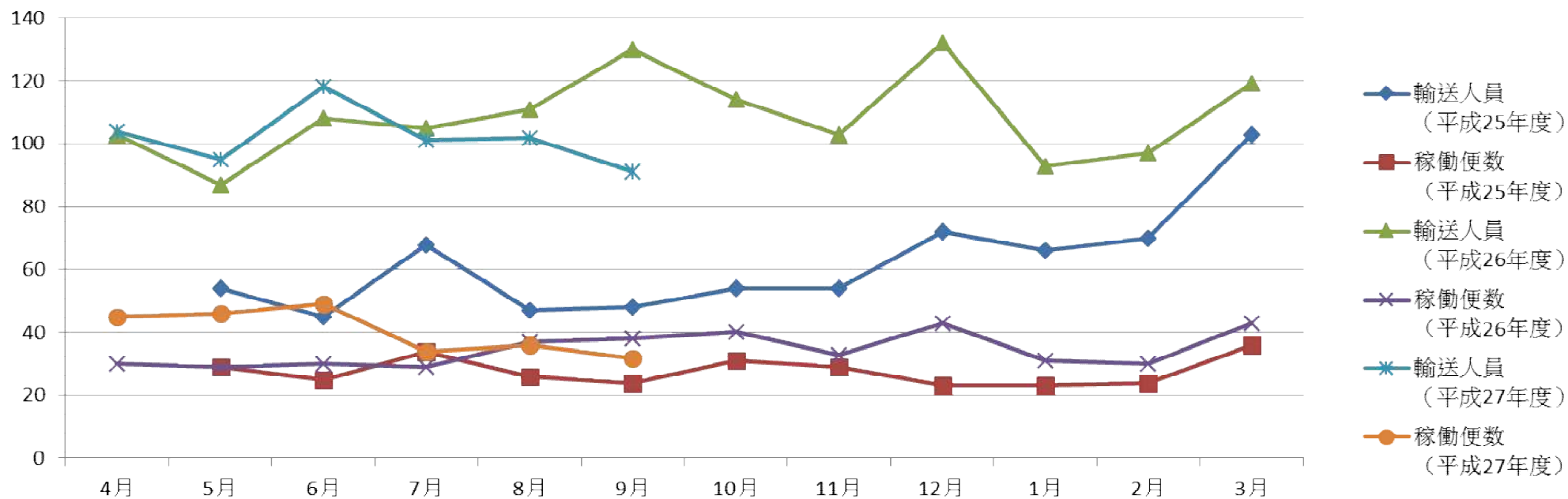


1日あたりの利用者は増加し、運行経費も縮減となった。また、利用者からの評価は好評である。

平成26年4月から本格運行開始
(地域内フィーダー系統確保維持計画策定)

・ 利用人数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
輸送人員 (平成25年度)		54	45	68	47	48	54	54	72	66	70	103	681
稼働便数 (平成25年度)		29	25	34	26	24	31	29	23	23	24	36	304
輸送人員 (平成26年度)	103	87	108	105	111	130	114	103	132	93	97	119	1,302
稼働便数 (平成26年度)	30	29	30	29	37	38	40	33	43	31	30	43	413
輸送人員 (平成27年度)	104	95	118	101	102	91							611
稼働便数 (平成27年度)	45	46	49	34	36	32							242

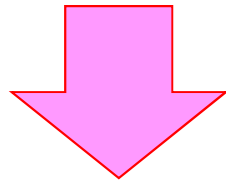


登録状況

運行開始当初

	大屋式	加持本村	本谷	大井川	田村	小川	エリア計
登録世帯	12	7	9	11	6	8	53
登録者数	19	9	14	17	19	8	86
地域世帯数	34	48	17	15	61	48	223
地域人口	79	105	28	35	151	100	498
65歳以上	36	45	14	19	56	34	204
登録率(人)	24.05%	8.57%	50.00%	48.57%	12.58%	8.00%	17.27%

※登録状況はH25.6月20日時点、人口はH25.3月末時点

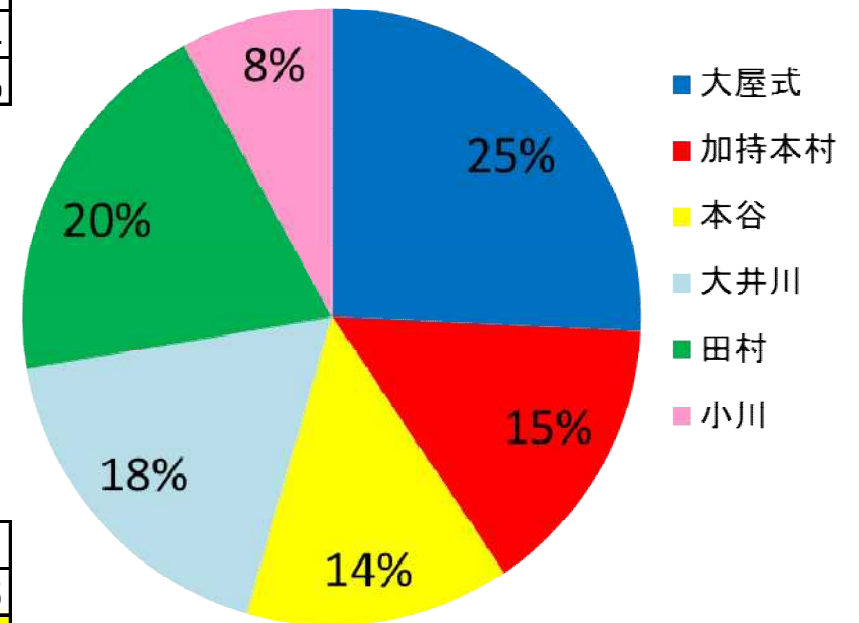


現時点

	大屋式	加持本村	本谷	大井川	田村	小川	エリア計
登録世帯	17	12	9	12	7	8	65
登録者数	26	15	14	18	20	8	101
地域世帯数	32	47	19	16	68	45	227
地域人口	78	103	26	33	161	96	497
65歳以上	37	46	14	18	63	31	209
登録率(人)	33.33%	14.56%	53.85%	54.55%	12.42%	8.33%	20.32%

※登録状況はH27.9月30日時点、人口はH27.9月末時点

登録者地域別
(H27.9.30時点)



・ 利用状況（目的地別）

平成25年度

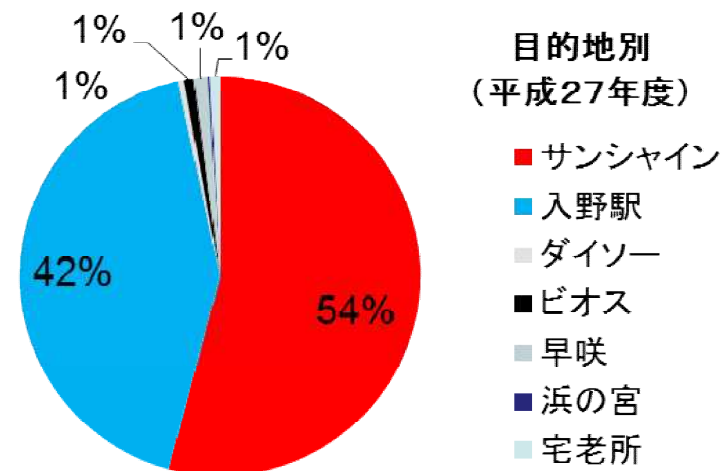
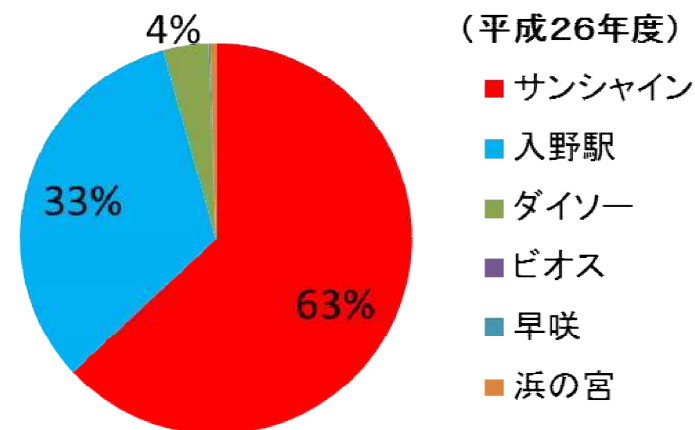
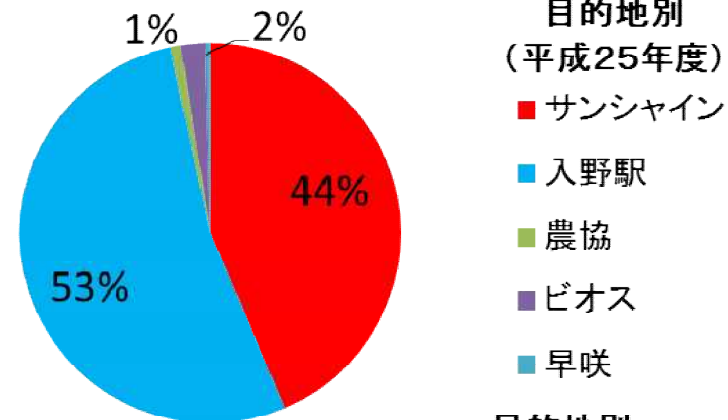
	サンシャイン	入野駅	農協	ビオス	早咲		計
乗車	161	152	3	7	1		324
降車	136	209	3	7	2		357
乗降計	297	361	6	14	3		681

平成26年度

	サンシャイン	入野駅	ダイソー	ビオス	早咲	浜の宮	計
乗車	413	199	12	0	1	3	628
降車	408	225	37	0	1	3	674
乗降計	821	424	49	0	2	6	1,302

平成27年度

	サンシャイン	入野駅	ダイソー	ビオス	早咲	浜の宮	宅老所	計
乗車	200	86	3	3	3	0	5	300
降車	131	173	0	2	4	1	0	311
乗降計	331	259	3	5	7	1	5	611



・ 利用状況の分析

【利用者数】

少しずつ順調に増加をしているが、直近2ヶ月ほどの停滞が心配である。この状況が続くようであれば、意見交換会を開催する必要がある。増加の要因としては、既に利用してくれている利用者がデマンドバスの利用のしかたなどを教えてくれているため、新規の利用者が増加している。

【地域別利用者】

利用をしている地域としていない地域が明確となっており、利用しない理由を整理することで有効なアプローチをおこなっていく必要がある。

【目的地】

平成25年度に比べサンシャイン(スーパー)の利用が倍増している。入野駅の利用者も現状維持であることから、買い物便としての利用が増加しており、週1回の買い物が2回・3回と増えたり、月1回の町外への専門病院に行った際に買い物をしていた方が、町内で買い物をしてくれるようになった。外出機会の増加や町内商店の利用頻度の増加など良い傾向が見える。

・今後の課題

・エリアデマンドバスの拡充

北郷加持エリアデマンドバスをモデルとして、町内枝線(路線バス)に順次導入。

・市街地交通(2次交通)の検討

デマンドバスの利用者からの意見に多かった「目的地が複数ある場合に利用が難しい」という課題である。入野市街地は銀行や農協、スーパーなどが点在しているため、高齢者が徒歩で移動するには厳しい環境である。また、デマンドバス(1次交通)ではニーズ対応にも限界があるため、市街地エリアの移動に特化した交通の創設が求められている。

同様に入野市街地には高台に住宅地があり、高齢者数も多く、生活便に困っている方が増加している。

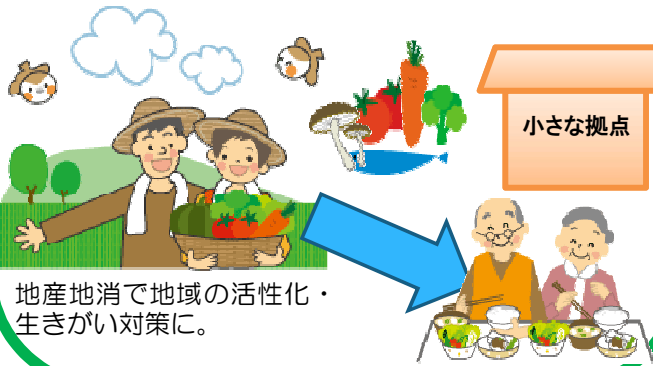
・小さな拠点との連携の強化

あったかふれあいセンターの移動支援(火・木)とデマンドバス(月・水・金)の相互補完により、地域の生活交通を担っているが、拠点施設への生活用品の運搬など移動手段以外にも公共交通が担えるものがある。そのため、中山間地域対策における課題と役割を明確化し、連携の強化による課題解決を行う必要がある。

小さな拠点の活用(案)

地域の農産物などを活用し活性化

「あったかふれあいセンター」のお弁当などの食材に、地域で採れた農産物や海産物を活用(販売)することにより、農作物を耕作している地域の活性化や生きがい対策につながることを期待できる。



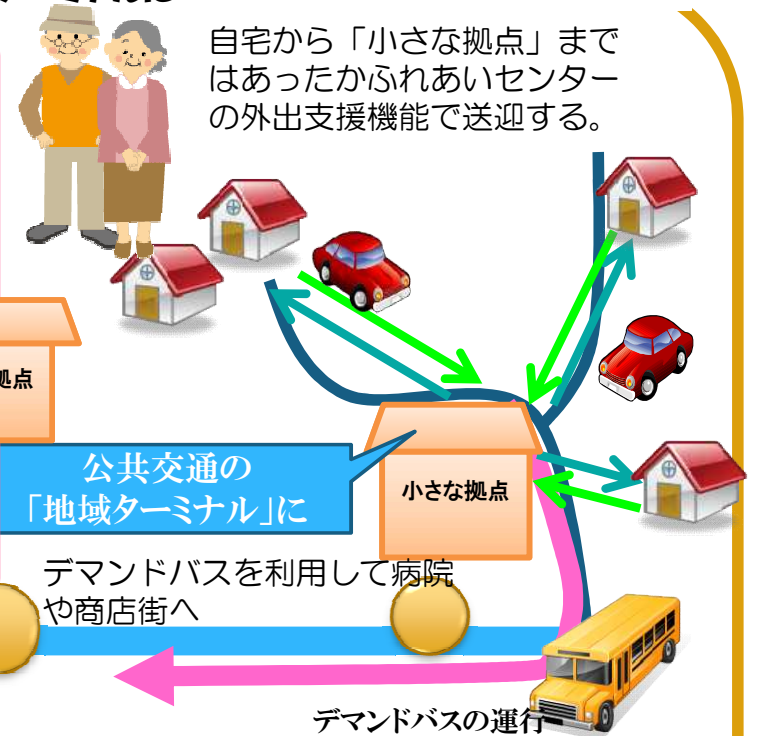
ボランティアの育成

「あったかふれあいセンター」「集落活動センター」の運営を地域住民に手伝ってもらうことで、ボランティアの育成に繋がる。また、両センタースタッフ(職員)が、地域活動に参加することにより、ボランティアの育成につながることを期待できる。さらに、利用者用のお弁当を地域で作るなどの活動も考えられる。



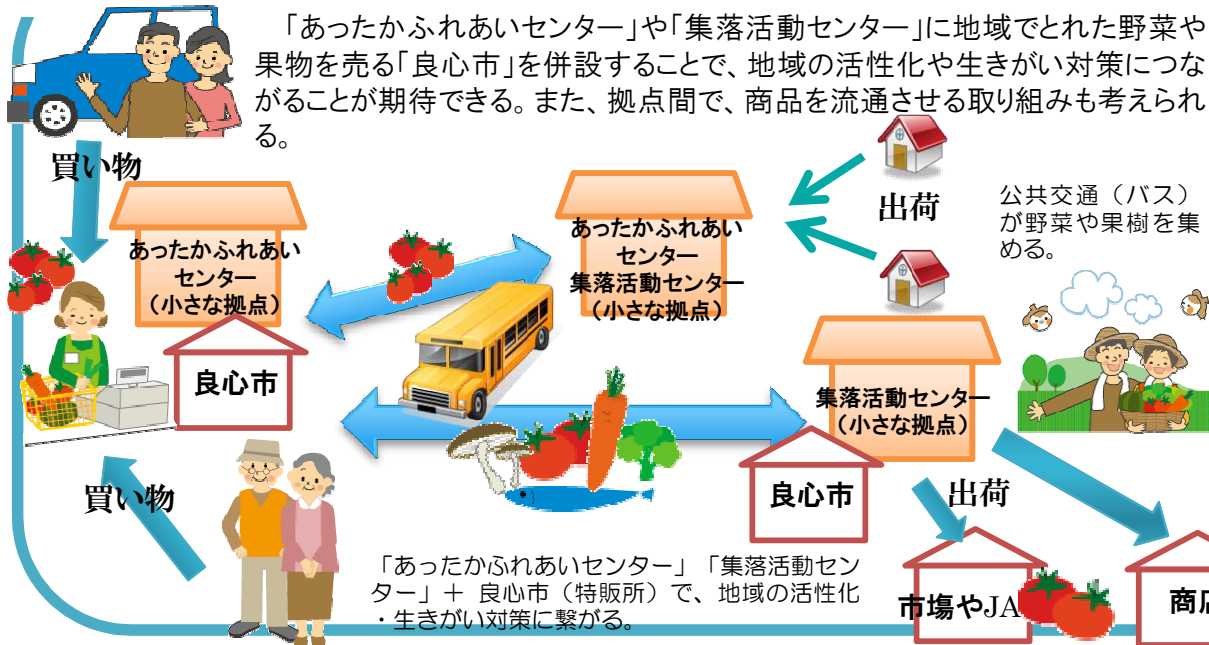
小さな拠点を公共交通(デマンドバス)の地域ターミナルに

自宅から「小さな拠点」まではあったかふれあいセンターの外出支援機能で送迎する。



小さな拠点で良心市(特販所)

「あったかふれあいセンター」や「集落活動センター」に地域でとれた野菜や果物を売る「良心市」を併設することで、地域の活性化や生きがい対策につながることを期待できる。また、拠点間で、商品を流通させる取り組みも考えられる。



公共交通の利用者からの予約の受け付けを「あったかふれあいセンター」が行い、バス会社に要請する。
公共交通の利用者は小さな拠点で憩いながら公共交通の到着を待つことができる。



ご清聴ありがとうございました。